○７月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」・夏の「郷土に学び・育む青少年運動」（平成30年７月１日～８月３１日）　○７月の人権に関する週間　鹿児島県男女共同参画週間（７月 25 日～３１日）

十島村教育委員会だより　平成 30 年６月号

さわやかトカラ情報

南北１６０㎞　「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

6月・・・村長と語る会

十島村教育長　有 村 孝 一

5月31日から6月1日の日程で、小学生は連合修学旅行、中学生は連合交流学習が実施されました。

小学校の5・6年生26人は、一昨年、熊本方面へ出かける計画を立てていましたが、地震の影響で霧島方面と鹿児島市内の見学にしました。その結果、思いのほかよかったという反省があり、今回も同じようなコースをとることになりました。さらに今年は、明治維新150年ということもあり、その関連施設も見学コースに取り入れられて、より中身の濃いものとなりました。初日に、村長室を訪ねて、村長から激励の言葉をいただきました。ある小学生からは、「十島村をこれからどうしていこうと考えていますか。」という質問があり、「しっかり頑張ってより良くしていきます。」という返事をもらったところでした。

一方中学生23人は、日置市の「ゆすいん」に宿泊し、伊集院北中学校を訪問し、交流を行いました。その中で、自分たちの住んでる島や学校を見事に発表してくれました。午後からは、十島村内の中学生同士のスポーツ交流もしました。

次の日は、高校選択の一つとして、鹿児島城西高校と樟南高校の見学を行いました。数多くの学科があり、どんなことを学んでいるのかということを知ることが出来ました。樟南高校では学校の食堂で昼食を食べたり、2人の十島村出身の先輩の話を聞いたりすることもできました。

その後、十島村役場に向かい選挙啓発学習を選挙行いました。村員らの会の選挙管理委員会の選挙担当者につい選て詳しく聞き、実際に選挙の時に使う記載台等を使って、模擬投票を行いました。事前に2人の立候補者による立会演説等をしてからの投票ということで、よりリアルな形で学べたと思います。これをきっかけに、将来村の議員になる日が来るのかもしれません。

最後は、村長と語る会でした。各島から観光振興やインターネット環境などの問題点についてどうしたらいいか、その解決策まで考えていて、中学生らしくさわやかに発表してくれました。

村長からは、「皆さん方はよく村の事を考えています。これからの村政に生かしていきたいです。」という感想をいただきました。

小中学生は、このように実りある充実した学習を終えて船に乗り込みこみました。将来の十島村を背負って立つ子どもたちの未来に期待しながら見送りました。

シリーズ――新聞に投稿１
（平成３０年６月８日南日本新聞「若い目」掲載）
口之島小1年　はやし たまき

のこさず食べたい

４月に１ねんせいになりました。がっこうは、まいにちとてもたのしいです。でも、ひとつだけにがてなじかんがあります。きゅうしょくです。

きゅうしょくで、まいにちでるやさいやぎゅうにゅうがにがてです。たべるまえにへらしてもらっても、じかんないにたべおわることが、なかなかできません。４がつは１かいしかできませんでした。

でも５がつには、すこしずつたべられるようになりました。せんしゅうは、３かいれんぞくでじかんないにたべおわりました。いえでも、やさいをたべるれんしゅうをしています。

これから、きゅうしょくをおいしくたべて、げんきにがっこうにいきたいです。

シリーズ――新聞に投稿２
（平成３０年６月10日南日本新聞「若い目」掲載）
小宝島中3年　牧原康成

県大会１勝目指して

興味本位で入部したバドミントン部だが、今では、強くなりたいと思うほどに好きになった。

５月の連休に、私たちは中之島中学校に遠征試合に出掛けた。自分より強い人たちと試合をすると思うと、急に体が動かなくなった。圧倒されて、３年生には１人として勝てなかった。次は、２年生との試合が組まれた。１学年下でも、思っていた以上に動きがよかった。

私にも年上としてのプライドがある。マッチポイントにな「負けたくない」という気持ちがわいてきた。無我夢中でシャトルを追った。必死にシャルを返して、返した。何とかジュースまで持ち込めた。最後はスマッシュを打ち返し、点を取ることできた。あと１カ月ほどで、最後の県大会が始まる。　必死に練習して、小宝島悲願の１勝を勝ち取りたい。

シリーズ――新聞に投稿３
（平成３０年５月１１日南日本新聞「若い目」掲載）
小宝島小1年　いわした あすか

ヤモリさん、こんにちは

ごせんもおとなのヤモリは、このあとも育てて、おわをがんばります。

っつたちしてもらんいヤモリは、ぼおやてきて、どっとってきどきしもいかもはてしたまのプ

にっぷのニせてたちゃ。なおてがかわ、しかたのあったしたをたヤくモれせまいはさわれなかがるか

おわるとりたくさんしのてす。りまいしょは、せまにけしたんしまはさあらいたがわれなけれます、さがるしを

よっうたさ。ばしりたかはあわるいよいはなおさらだ、そんな中、

でキかラっきょうでいます。めは、いねろはもキりをめラを

７年ぶりの登山遠足

私の学校には、地元の山「御岳」に登る行事がある。最頂上は7年ぶり、そしてこれが学校生活の御岳登山遠足になった。

小学校は全員、学年に応じた距離を歩くのだが、高学1年生は歩いても、私はあまり疲れを感じなかった。小学校低学年は歩幅も小さい、体力もない。しかし、いのでかたいへんそうだった。舗装道路を9キロほど歩き、いよいよ本格的な山道にさしかかる。低学年の身長ほどの高さの段差もある。私たちでも大変だったので、低学年はなおさらだ、そんな中、中学生が低学年の時の登山はもう記憶にないが、自分が低学年の手をとって助ける姿があった。

にもそれほどなかったはずなので、やはり年上の人たちに助けられうれしかっただろう。助け合って全員でやり遂げたのが、今回の御岳登山だ。

手　で、そうでなければ生きていけない。

島の暮らしも助け合いで成り立っている。物がすぐに入らなかったり船便の欠航があったりするわたしたちの島では、助け合うのは当たり前

ことに感謝しながら、卒業までの日々を過ごしていきたい。

シリーズ――新聞に投稿４
（平成３０年５月１５日「若い目」南日本新聞掲載）
中之島中3年　平泉　翔大

シリーズ――新聞に投稿５
（平成３０年５月２８日「若い目」南日本新聞掲載）
宝島小3年　清水公翔郎

ウミガメはゆう気のごほうび

車で行った海は、ぼくが知らないところでした。目の前には、ごつごつしたサンゴの岩が広がっていて、穴がたくさん開いています。その穴やサンゴのわれ目からなみがザブザブと音を立てて出てきます。

ぼくは、おちそうで「まってよ。ちょっとまって」とさけびました。先に岩の上を歩いていったお父さんは「だいじょうぶ、だいじょうぶ」とわらいながら手まねきをしました。

少しずつがんばって歩いていると、お父さんが手をつないでくれて、声を合わせてサンゴのわれ目をとびこえました。たくさんのわれ目をぴょんぴょんととびこえているうちに、ゆう気がわいてきて、手をはなしました。そして、お父さんのようにどんどんすすめるようになりました。

だいぶ歩いて、ふと前を見ると、サンゴのわれ目がプールのようになっているところがありました。すうっと大きなかげが泳ぎました。びっくりしてよく見てみると、ウミガメがゆうゆうと泳いでいました。走ってカメに近よりました。そしてしゃ真をとりました。ゆう気を出してがんばって歩いたごほうびなのかな。ゆう気を出せてよかったなと思いました。

シリーズ――新聞に投稿６
（平成30年６月３日南日本新聞「ひろば」掲載）
口之島小・中学校　教員　岡本真人

口之島で本当の豊かさ実感

「僕は、ずっと口之島に住みたいなあ」「私も」。小学生の息子や娘が、最近よく口にする言葉である。

転勤でトカラ列島の口之島に来て、３年余りが過ぎた。転勤前は、初めての離島生活に大きな不安があった。病院がなく、定期船も週に２往復しかない。しかし、実際に住んでみると不便さよりも、これまで体験できなかった本当の豊かさを実感している。

島の人たちは「みんなで食べてね」と毎週のようにとれたての魚やたけのこ、野菜などを持って来てくれる。親子で同じ学校に通い、一緒に給食を食べるというのも、他ではなかなかできない経験である。土日になると、島内の子どもたち全員が校庭やカワ（集落の泉）などで一緒に遊んでいる。未就学児から中学生まで、仲良く遊んでいる姿はとてもほほえましい。

大型連休は島の子どもたちと一緒にサツマイモ植えや野イチゴ採り、海釣り、ビワ採り、海水浴などを楽しんだ。都会や行楽地にありがちな人混みとは全く無縁である。みんなで島の自然を心ゆくまで満喫することができ、なんとも心地よい気持ちになった。

自然の素晴らしさ、人の温かさを肌で感じながら、家族全員で口之島の生活を楽しんでいる。

十島村の口之島小中学校からのメッセージ
前　芳樹

昨年４月に口之島小中学校に赴任しました。私にとって２回目の離島生活で，前回は実家のある沖永良部でした。２回目の離島はあえて全く知らない土地を希望しました。それが十島村でした。

いろいろな思いをもってやってきた口之島。その口之島も港に降り立った瞬間から好きになりました。子どもたちや職員の温かい歓迎の演奏。島民あげての歓送迎会。海釣り大会や臨海学校など特色のある学校行事。２日間連続で開催される文化祭・運動会では，島民の皆さん全員と盛り上がることができました。

夏には口之島伝統の盆踊りにも参加しました。島民の皆さんの熱い思いに強く心を打たれ，私自身もっとこの島で頑張りたいと思うよい機会となりました。

個人的には昨年，列島マラソンで宝島へ，村民体育大会で中之島へ行くことができました。また，先日のGWは悪石島を家族で観光しました。どの島でもよい思い出を作ることができました。

口之島や十島村での生活は，私にとって毎日が新鮮です。個性あふれる子どもたちとの生活は毎日が発見ばかりです。人生の中でも，ここ十島村での生活はきっとわずかなものだと思います。しかしここでの経験は，今後の人生に大きな影響を与えてくれると思います。出会いを大切にしながら，これからも離島での生活を楽しみたいと思います。

「教職員であるあなた」への私からのメッセージ

「環境が人をつくる！」初任校で教えていただいた言葉です。十島村は，離島ならではの不便さもありますが，そこは発想の転換。ここでしかできないことも多くあります。この環境でできる精一杯を考えながら，子どもたちとともに頑張りましょう。